



..... 国際ロータリー第2660地区 ■吹田江坂ロータリークラブ.....  
**SUITA ESAKA ROTARY CLUB**  
**CLUB WEEKLY BULLETIN**

創立年月日 / 1990.2.27  
事務所 / 〒564-0063 吹田市江坂町1丁目23番101号(大同生命江坂ビル12F)  
TEL06(6821)0222 FAX06(6821)0206 E-mail:esaka-rc@lake.ocn.ne.jp

例会場 / 新大阪江坂 東急イン・3F 〒564-0051 吹田市豊津町9番6号 TEL06(6338)0109 例会日 / 毎週火曜日 12:30~13:30  
会長:八橋志夫 幹事:木元良三 会報委員長:飛田昭男

◇ 2008年7月22日 第870回例会(第869号) ◇

☺ 本日の例会 ☺

今週の歌 「四つのテスト」

卓話 「一年を振り返って」

芳賀 洋 直前ガバナー補佐

☺ 次回例会のお知らせ(7月29日) ☺

卓話 「一年を振り返って」

寺井 正 昭 直前SAA

「私の職業」

新井 性 哲 会員

前回〔7月15日〕例会記録

来客

大前清彦君(吹田)

会長の時間 八橋 会長

先週の週報のニコニコ箱欄に多くの方々から新年度会長、幹事、理事に対し激励ニコニコが掲載されておりました。ニコニコをされたの方々に対し木元幹事はじめ理事になりかわりお礼申し上げます。これを励みに頑張りたいと思います。

「ロータリーの友」7月号に大阪天満橋RCは会員75名で、ニコニコが年間累計500万円になるうとしている事が掲載されておりました。この現実を皆さんはどのように理解し評価されるか分かりませんが、「ロータリーの友」によりますとニコニコボックス、スマイルボックスとも言われ、喜怒哀楽の出来事、早退、欠席などに対し善意のお金をニコニコ箱に納めます。集まったお金は社会奉仕活動などに活用されます。とあります。ニコニコは自由意思による善意の寄付ではありますが、皆さんもニコニコの心を

出席報告 山崎 委員長

【7月15日】

在籍会員 40名 (内出席規定適用免除者 10名)

出席会員 28名 (内出席規定適用免除者 5名)

ホームクラブ出席率 80.00%

6月24日のMUを含む出席率 90.24%

理解されご協力の程をお願いしたいと思います。ニコニコから同胞が集まり、その同胞が有事には必ずや心の支えとなってくれることでしょう。それがロータリークラブの仲間であり、ロータリーの精神であると私は信じています。

相田みつをさんの書に…「その時の出会いがその人の人生を根底から変えることがある。出逢いが人間を感動させ、感動が人間を動かす、人間を動かすものはむつかしい理論や理屈じゃない。人間を根底から変えていくもの、人間を本当に動かしていくもの、それは人と人との出逢い、そのときの出逢い」…とあります。お互い良き理解者になり、良き友情を築き、心の友を増やしましょう。ブランドの友を増やしましょう。それにはまず自分自身がブランド商品になるよう努力することです。自分を磨くことです。ロータリー精神を学ぶことです。

幹事報告 木元 幹事

◎7月13日(日)実施の青少年健全育成啓発活動「クリーン・エサカ」の参加者は八橋会長・水谷副会長・小谷会員・木元の4名でした。



◎第1回クラブ国際奉仕・世界社会奉仕委員長会議の案内

日時：8月2日(土) 9:30~11:30  
 場所：薬業年金会館 601号室  
 担当：田中(襄)奉仕活動副委員長宜しくお願いします。

◎クラブ広報委員長会議の案内

日時：8月9日(土) 13:30~16:00  
 場所：薬業年金会館 601号室  
 担当：橋本広報副委員長宜しくお願いします。

ニコニコ箱

栢本会員 いつも遅刻で済みません。八橋会長、木元幹事どうぞ宜しくお願いします。  
 田口会員 今年度も宜しくお願い申し上げます。  
 山崎会員 僕、遅れ馳せ乍ら八橋会長、木元幹事夏バテに気をつけて1年間頑張ってください。ナゼ…。  
 本日分 18,000円  
 累計 219,000円

奉仕活動委員会

金馬副委員長  
 (青少年奉仕担当)

第1回提唱RC/未提唱RC ローターアクト正副委員長会議

《報告》

2008年7月12日(土) 13:30~16:30  
 OMMビル 201号室

近年、ローターアクトのメンバーも減少しています。現況では、一部の提唱クラブだけがサポートをしています。未提唱クラブも協力をして欲しいという事でした。吹田江坂RCは、IM2組の吹田RCを中心として吹田西、摂津、千里、千里メイプルと共にサポートする事になりました。

ローターアクトのメンバーの会員増強にご協力下さい。

卓話

「今年度卓話予定について」(7月8日・第868回)  
 延秀恵 プログラム委員長

毎週繰り返しやってくるRCの例会の内容を大別すると、会長の時間、幹事報告並びに種々の連絡事項、そして30分という時間を占める卓話である。このように考えると、卓話の重要性を感じてしまう。これによって、その日の例会が意義があったかどうかが決ってしまう。もちろん個人個人、好みも違う

し、価値観も違うので、テーマに対する重要度は異なってしまうが、でも仮に35人の会員が出席されていたとして、30(分)×35(人)=1,050分もの時間の幅を費やすのだから、話す側は多少の負担を感じずにはいけないと思う。

プログラム委員会を担当するにあたり、

- ①出来るだけ全会員公平に卓話をしていただく。
- ②卓話テーマとして硬、軟を織りませたい。
- ③20周年直前期なので、それに関連した卓話を入れる。
- ④15分卓話も入れ、“私の健康法、健康の為に心掛けていること”“もし現在の職業についていなければ…”“子供の頃の夢”という2テーマから選んでいただく事も出来る。
- ⑤ロータリーソング勉強会も行なう。
- ⑥諸条件が満たされればゲスト卓話も行なう。

以上の考えの元に7月~12月(上半期)は種々の公式行事も多く、八橋会長方針の“会員増強フォーラム”も行なうので、比較的“硬”のイメージの強いプログラムとなる。2009年1月~5月に少し柔らかい内容のものを入れてゆきたい。そして6月、今年度の締めと次年度への橋渡し。卓話は会員の皆様の“熱きお心”なくして成り立たないので、どうぞ、どうぞご協力下さいますようお願い致します。

8月度卓話予定

	卓話担当者	卓話内容
第1週 8/5 872回	田中茂晴 広報委員長	「会員増強月間に 因んで」
第2週 8/9 873回	8月12日(火)を変更	「夏の家族会」
第3週 8/19 874回	渡辺忠雄 会長エレクト	「20周年に向けて」
第4週 8/26 875回	長澤義雄 会員	「20周年を前に 思い出すこと」

「一年を振り返って」(7月15日・第869回)

西 上 博 幸 直前地区青少年活動委員長

「一年を振り返って」の話をする前に、どうして私が地区委員になり、また青少年活動委員長に委嘱されたかの経緯を先にお話し、そして委員長時代の話をいたします。

○地区委員になるきっかけ

2005-2006年度春のライラのホストクラブに吹田江坂RCが決まったことから始まる。

○何故委員長に

春のライラを終え、その後、青少年活動委員長から田中(襄)実行委員長へ後継者としての打診があり、その内容について理事会に諮られ承認されました。

○1年間で何を学んだか

- ①青少年とのかかわりの必要性。
- ②青少年のリーダーを養成することは、多くの青少年を導くことになる。
- ③青少年のリーダーは生まれながらにしてなれるものではなく育てられるものである。
- ④「家庭」と「教育」の大切さ。家庭は教育の出発点です。やはり家庭の躰教育が人間を形成すると感じております。教育が人をつくり、人は企業や国をつくります。
- ⑤青少年活動を通じて多くのロータリアンやRAと接する機会を得た。

○1年間で何ができたか

私一人の力では何もできません。一人の力・能力は限界があります。しかし、地区青少年活動委員会という組織を預かり、組織を活かしてまたその組織のプログラムを通じて沢山の児童や青少年のリーダーを導くことができました。

ニコニコキャンプでは、児童はお世話をしてくれたRAのお兄さんお姉さんたちの背中を見て将来の夢を持ってくれたと思います。そして、自然環境の中で共同生活を通じ友情や心の豊かさを養い色々な体験をし、良き思い出を作ってくれました。一方お世話をしてくれたRAのメンバーは、リーダーシップ養成の実践研修の機会を得たわけでございます。

ライラでは、リーダーとして必要な人間関係向上を図ってくれました。チームワークの大切さや、自然のうちに仲間を作る方法も学んでくれました。また、自分の考えを正しく相手に伝えることから始まり、コミュニケーションを図るには自分の心が開いていないと図れないことを体験してくれま

した。グループ行動は、チームワークを知るための研修であったと思います。そして、共同生活の中で自主性や自己責任の重さを自覚し、自分の将来を切り開くのは自分自身であり、未来の自分に合える、夢に描いた自分になれるかどうか、それは自分自身の努力、責任にあることを学んでくれました。

今年の秋のライラは、関西大学高槻キャンパスにて、大学生60名ロータリー推薦の青少年60名合計約120名規模の大学との合同ライラが実現します。これは、日本で初めての取り組みになります。

ライラワークショップは、昨年に引き続き関西大学の寄付講座により大学を会場として開催できました。学生の参加を得てグループ討議ができたことは、多くのロータリアンや学生にとって非常に意義深いことでした。ロータリアンと学生が直接対話する機会を設け、ロータリアンにとっては、次世代を担う若者の考え方や意見に直接ふれ、学生にとっては、社会において自分たちは何を求められどのように自己研鑽を積むべきかを汲み取ることができ、明日への一歩に力強い助言となったことでしょう。

国際ライラおよび世界ロータアクト大会に各1名を参加させることができ、先月無事帰国しました。

○最後に

青少年活動委員会のプログラムを通じて小学生がインターアクターからローターアクターとなり、やがてロータリアンへと成長してくれることを願って、そして、ロータリーの未来の架け橋となる青少年指導者を養成する活動に取り組んでまいりました。

クラブの皆様方の暖かい友情に支えられ、一年間問題もなく無事走り続けることができましたこと、委員長の大役を全うさせていただくことができましたこと心より感謝申し上げます。

